



平安だより 2020年11月号 平安幼稚園

「みだりに唱える」 牧師・園長 北川正弥

「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。」

旧約聖書 出エジプト記二〇章七節

※この文章で映画「アラジン」のネタバレをしています。

僕の大好きなお話の中に「アラジン」があります。

貧しい青年のアラジンは、お城を抜け出したお姫様と恋に落ちます。お姫様はお城に連れ戻されてしまいましたが、その後アラジンは魔法のランプを手に入れるのです。ランプを擦るとジーニーという魔人が、どんな願いでも三つまでなら叶えてくれるといいます。そこでアラジンは、最初の願いで自分を王子にしてくれと頼みました。でもせっかく王子になって会いに行っても、お姫様は見向きもしてくれません。お姫様の心の中には、貧しい青年アラジンがいたからです。この後アラジンは悪役ジャファーに命をねらわれ、自分を救うために二つ目の願いを使ってしまう、その上ランプをジャファーにとられてしまいます。ジャファーは一つ目の願いで王様になり、二つ目の願いで世界一の魔術師になりました。そこでアラジンは、三つの願いに頼ることをやめ、自分が出ることをしようと決意しました。そしてアラジンに「世界一の魔術師よりもジーニーの方が上だ」と言われたジャファーは、三つ目で「ジーニーになりたい。」と願ってしまう、ランプに閉じ込められてしまうのです。アラジン

は自分に残った三つ目の願いで、ジーニーをランプから自由にしてあげました。「アラジン」というのはそんなお話です。

年中組のお友達は今、十戒を覚えることに挑戦しています。十戒というのは、神様が教えてくださった十の教えのことです。そしてその中の三番目の教えが「あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。」です。実は昔、神様の名前を唱えれば、なんでも願いが叶うと考えられていたのだそうです。だからこれは、人が神様の名前を呼ぶことで、神様が召使のように、なんでも願いを叶えてくれると思っただけではないという意味なのです。ジーニーはすごい力を持っていますが、アラジンのことを「ご主人様」と呼びます。ジーニーは召使です。だから三つまでならなんでもアラジンの言う通りにします。またどんなに悪者でも、ジャファーがランプを擦った時には、ジャファーの言う通りにしてしまいます。でもアラジンもジャファーもちっとも幸せにはなりません。願い事が間違っているからです。人には未来のことがわかりません。だからいいと思っただけで願う事が実は間違っているということもよくあるのです。だから神様はジーニーとは違って、どんな願い事でも、召使のように叶えてくれるわけではないのです。僕たちは願い事が叶わないとがっかりして「神様なんていないのではないか」と思ってしまうことがあります。でも僕は信じています。神様は召使じゃないから、なんでも願いことを聞いてくれるわけではないけれども、それは神様がいないからではなくて、むしろ神様は僕たちにとって、そして世界にとって、何が本当にいいことなのかちゃんとわかっているから、僕たちの願い通りのものではなくて、本当にいいものを下さろうとしてくれるんだと。それが、自分の願いがかなわない時の、僕の慰めです。